

TOKAMACHI

市報

とくまち

1.10

●第929号●平成17年（2005）January



●主な内容

- 市長年頭のごあいさつ……………2・3
- 西年生まれに聞きました……………4・5
- 第56回十日町雪まつり開催決定 ……6・7

制作：福崎礼子（おとぎ工房）

50th
SINCE 1954
十日町市は今年50歳



「春待つ川」



「春のいぶき」

年頭のいあいさつ

平成17年の年頭にあたり、市民の皆様にご挨拶に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年10月23日、十日町市は、いまだかつて経験をしたことがない大地震による災害に襲われました。この中越大震災は、市民の尊い命と財産を奪い、病院、道路、水道、下水道、電気、鉄道など社会に欠かすことのできない公共施設にも大きな被害を与えました。また、商工業や農業の被害も甚大でありました。多くの市民が長くて不自由な避難生活を余儀なくされ、市民生活にも大きな障害を与えました。市では、国・県の迅速な支援と対応をいただき、早期の復旧・復興を目指して作業を進めています。

また、全国各地から心温まる励ましとともに、救援物資や技術者の派遣、義援金など大きな支援をいただきました。大勢の災害ボランティアの皆さんも全国から駆けつけてくださいました。私たちは、このことを生涯忘れません。この場をお借りして、全国の皆様に市民を代表して心から感謝とお礼を申し上げます。

しかし、被災者の中には、愛する家族を失った遺族の皆様や、住む家を失い仮設住宅で生活をしている皆様はまだおられます。この皆様のことを思うと、心の痛みが治まることはありません。被災されたすべての皆様が、一日も早く平穏な日々を取り戻せるよう、生活の復興、心の復興に全力を挙げて取り組んでまいります。

さて、今年は十日町市にとって歴史的な大きな転換の年となります。十日町市50年の歴史にひとつの区切りをつけ、4月から新たに川西町、中里村、松

代町、松之山町と合併して新生「十日町市」として次の時代へ第一歩を刻み始めます。それぞれの地域がそれぞれの個性と特性を生かして地域づくりを進め、更には国や県の合併支援を活用して有効な施策を実行し、一体となった新たな市を建設していかなければなりません。このことは、次の世代のため、今に生きる私たちの責務であると思います。

この地域には、地域高規格道路や魚沼地域の高度医療体制の構築、広域圏内の高速通信網の整備、雇用の確保と地域産業の振興など大きな課題が山積しています。大変厳しい経済環境が続いていますが、私は今年を「震災からの復興の年」「合併による新しいまちづくりの年」と位置付け、市民が夢を抱き続け、住み続けられる「まち」を築き、市民の皆様のご生活と福祉が更に向上するよう、全力で市政に取り組んでまいります。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

新しい年が市民の皆様にとりまして平穏で幸多き年になりますことを心からお祈り申し上げ、新春にあたってのごあいさつといたします。



十日町市長 滝沢 信一

—— 2005年は私たちの年 ——

とり 酉年生まれの12人に聞きました

今年は酉年です。十二支の動物の中で、唯一の鳥類です。干支の酉は「ニワトリ」のこと。単に鳥というとニワトリを思い浮かべる人も多く、ニワトリは人間と最もなじみの深い鳥と言えます。そんな酉年生まれの人たちに今年の抱負などを聞きました。



佐藤 要蔵さん
(川治内後2)
昭和8年7月23日生まれ

この4月に、夫婦で皇居勤労奉仕団の一員に加えてもらい参加します。皇居に入るのは初めてなので、今から待ち遠しいです。家でじっとしているのが苦手で、とにかく動いているのが好きです。趣味のきのこ栽培や野菜作りが何よりの楽しみです。今年も家族が健康で元気に働けるのが一番の願いです。



結城 清美さん
(下川原町)
昭和56年6月4日生まれ

昨年4月にきもの関係会社に就職しました。宮城県出身です。初めてのことでばかりで戸惑いでしたが、今年は社会人2年目、何でも落ち着いてじっくりやりたいです。十日町では四季折々の自然など季節をたん能していますが、地震で秋だけ知らないんです。車も買う予定だし、今年こそ秋を楽しみたいです。



福崎 まこさん
(田麦)
平成5年3月1日生まれ

今年は中学校に入学します。吹奏楽部に入って、クラリネットかフルートを担当して、アレンジの「花」を演奏してみたいと思っています。初めての英語の授業と、夏休みになって友だちとディズニーランドへ遊びに行くことを楽しみにしています。生徒も多くなるので、中学校へ行くのが楽しみです。



田川 千恵さん
(五軒新田)
昭和32年10月27日生まれ

十数年前に中型バイクの免許を取ったきり、子育てに追われて乗る機会がありませんでした。次女も高校を卒業するし、今年は夫といっしょにツーリングに行きたいです。また、体力維持のための自転車通勤とママさんバレーで汗を流したいと思います。パソコンも覚えたいし、とにかくいろんなことに挑戦したいです。今年こそ有言実行です。



春日 勇輝さん
(樽沢)
平成5年6月10日生まれ

クロスカントリーで、去年よりも上位入賞を目指して頑張ります。仮設住宅の近くの国体のコースを使っていっぱい自主練習をします。完走したときや入賞したときにはとてもうれしいです。だから練習が辛いと思ったことはありません。ずっと続けていきたいです。今度6年生になります。修学旅行で佐渡に行くのがすごく楽しみです。



野上 健さん (川原町)
昭和44年10月1日生まれ
久美子さん
昭和44年9月30日生まれ

健さんー 今年は所属している野球チーム、十日町フェニックスで県大会を制覇したいです。

(妻に対して) 穏やかな夫婦生活を送れるようにがんばりましょう。
久美子さんー 今年は上昇傾向にある体重を何とかしたいですね。
(夫に対して) もう少しお酒を減らして体に気を遣ってください。
お二人ー 下の子は4月から小学1年生、嫌がらずに学校へ行っほしいですし、上の子は小学3年生、何かスポーツを始めてほしいです。今年は結婚10周年、念願の家族旅行に出かけられればと思います。これからも肩ひじ張らず自然体でいきたいですね。



田中 豊子さん
(桑原)
昭和20年11月23日生まれ

還暦までは続けようとエアロビクス教室に通い始め、かれこれ20年になります。下条地区公民館で週1回、ダイエットのためだけでなく、若いお母さんたちからエネルギーをもらえて楽しいです。この調子であと数年は続けたいですね。今年も健康に心がけて、夫と家業の内装の仕事を頑張りたいです。



曾根 忠之さん
(太子堂)
昭和56年2月26日生まれ

体を動かすことが大好きで、普段から野球やバレーボールをしています。野球では昨年、十日町クラブの一員として青年大会に出場し、準優勝しました。今年こそ県大会で優勝したいですね。また、今年は中学校の同窓会の幹事を務めます。人とのふれあいを大切に、地域の活性化に役立ちたいです。



阿部 セツ子さん
(中条旭町)
昭和8年5月19日生まれ

婦人会やPTAなどでいろいろな役員を務めてきました。そこで出会った人たちとはよく気が合い、今もつき合いが続いています。最近、近所の人とお茶を飲みながら話をしている時間が楽しいです。たくさんの友だちに恵まれたことが、私の大きな財産です。人生を有意義に楽しんで過ごしたいですね。



中島 良夫さん
(土市3)
昭和32年9月11日生まれ

36歳の年に会社を創ったので、今年でちょうどひと回り、節目の年になります。地震で傷んだ事務所をなんとかしたいです。仕事柄365日営業のようなもので睡眠時間の確保が難しいですが、こうして仕事をしていることが健康なんだと思っています。町内会や子どものことでも忙しいけれど、それはそれで充実していますね。時々友人と釣りやゴルフを楽しむことが気分転換です。これからの12年は人生の中でも1番大事なときだと思っているので1年1年大切にしたいです。たまには行列のできる店にでも行って、うまいものでも食べてきたいですね。



高野 幹夫さん
(土市2)
昭和20年8月30日生まれ

数年前まで夫婦で行き先も目的も決めずに、気が向くままのドライブ旅行をしたんです。軽自動車で本州最北端の青森県竜飛岬や、本州最南端の和歌山県潮岬に行きました。道中に見なれない風景を見ながらのドライブが楽しかったですよ。夫婦とも体がマメなうちに、本州最西端の山口県下関へも行ってみたいですね。
最近健康のことを考えてサイクリングをしています。通勤に利用し、野沢温泉や魚沼スカイラインも登りました。今一番の楽しみは、東京に住む5人の孫が盆や正月になると帰って来ることです。とにかく孫は理屈抜きにみじよいですから。

第56回十日町雪まつり 開催決定

～復興へのエールに～

豪雪地の住民が、「雪を敵とせず友としよう」という逆転の発想から、日本で最初に始めた雪まつりが、今年56回目を迎えます。厳しい自然環境の中にあっても、いつか来る春を夢見て、共に立ち上がろうとする雪国の祭典は、震災に打ちひしがれる人々の心に希望を与え、郷土を愛する力を呼び覚ますことでしょう。

市民手作りの雪まつりが、被災者の心を癒し、復興への力強い励ましとなるよう、第56回十日町雪まつりへの参加をお願いします。



がんばろう！十日町立ち上がろう！中越

十日町雪まつり実行委員会会長 滝沢信一

このたびの地震で被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

第56回十日町雪まつりの開催にあたり、私たちは災害復旧を最優先に位置づけ、財源をできる限り復興にまわすという方針のもと、大幅な計画見直しを行いました。その結果、開催期間を2月19日(土)・20日(日)の2日間に短縮し、雪上カーニバルを中止するなど、例年に比べ規模を縮小しての開催となります。

一方で、十日町雪まつりに込められた願いを、地震によって断ち切ることはできません。先人が全国に先駆けて始めた雪まつりには「過酷な自然環境の中でも、互いに支え合い

ながら困難な季節を乗り越え、人々の心に春を呼び込もう」という思いが込められています。日本有数の豪雪地帯を襲った地震のつめあとは、白銀の下で息を潜め、雪解けとともに新たな困難となつて私たちの前に立ちふさがるかもしれません。しかし、苦難に襲われている今だからこそ、第56回十日町雪まつりを通じて「がんばろう！十日町 立ち上がろう！中越」と呼びかけたいのです。それぞれの被災状況から自主的な参加を基本としつつ、今回の趣旨に賛同いただける皆様から第56回十日町雪まつりにご参加いただきますようお願いいたします。

基本方針

第56回十日町雪まつりは、次のようなことから「がんばろう！十日町立ち上がろう！中越」をスローガンに開催します。例年のような盛大な開催を自粛し、限られた予算のもと、市民手作りという十日町雪まつりの原点を継承して実施します。

◆華美な開催は、被災者の窮状を察し義援金や救済物資を寄せてくれた多くの皆さんの暖かい真心を損なう恐れがあること。
◆市の雪まつり委託料の支出をできるだけ削減し、その財源を災害復旧に充てることが適当であること。
◆地震で予期せぬ出費を余儀なくされている市民や市内外の企業に対して、協賛金や広告料を募ることは適

雪像制作団体・ひろば開設団体募集中

お祭りひろばの開設団体、雪の芸術作品・雪の街角作品の制作団体を募集しています。昨年の実施団体には代表者あてに申込み書類を郵送済です。新規希望団体は雪まつり事務局に問合せください。

- (1)お祭りひろば
地域コミュニティの活性化にぜひご参加ください。
補助金：20,000円／1団体（最低金額）
- (2)雪の芸術展
①芸術部門②特別部門③学童部門の3部門です。
芸術部門補助金：20,000円／1団体（最低金額）
特別部門補助金：10,000円／1団体（最低金額）
- (3)雪の街角作品
小グループでの雪像制作に適したコンテストです。
補助金：10,000円／1団体（最低金額）

主な変更点

- ◆開催日程を2日間に短縮します
2月19日(土)・20日(日)の2日間で開催します。
- ◆雪上カーニバルを中止します
カーニバル会場が震災により使用できないため、雪上カーニバルを中止します。今年はコミュニティひろば（十日町高校グラウンド）を主会場とし、内容を検討した上で、主管団体の十日町青年会議所と連携しながら開催します。

◆お祭りひろばを実施します
お祭りひろばは、コミュニティ醸成・助け合いの場として欠かせません。従来同様、各種団体による自主的な運営とし、補助金は可能な範囲で助成します。

◆雪の芸術展を実施します
雪の芸術展は、雪まつりの原点であり、コミュニティ醸成の場として欠かせません。従来同様、各種団体による自主的な制作とし、補助金は可能な範囲で助成します。

◆ミス十日町雪まつりコンテストを実施します
当市の観光親善大使として、通年で活躍していただくために実施します。今回はイベント色を排除し、選考会として実施します。

◆各種イベント
雪だるま大作戦を呼びかけ、市民一丸となった震災復興への取り組みとします。そのほか予算規模にあわせて、できる範囲で実施します。

◆全国のミスを招きます
従来同様、交流都市のミスを招き、市民に元気を与えていただきます。

◆交通・PR・その他
雪上カーニバルの中止に伴い、今年はPR・交通規制・駐車場確保・案内所設置は必要最小限にとどめます。市外には、ホームページなどインターネットを利用したPRを行います。

ミス十日町雪まつり コンテスト参加者募集中

復興に向け、新生十日町市の観光親善大使として活躍していただける人を募集しています。選ばれたミス3人からは1年間、新市の観光PRに活躍していただきます。

●応募資格
県内在住で満18歳以上（高校生を除く）の未婚女性。県外在住でも十日町市・川西町・中里村・松代町・松之山町に帰省地がある人は応募できます。ただし、ほかのミスコンテストに入賞し、任期中の人は応募できません。

●賞品（予定） 振袖ほか
●応募締切り 1月29日(土)午後5時（申込書必着）

●審査方法
(1)予選会（書類審査）
1月30日(日)本選会に進む10人を選出
(2)本選会出場者説明会 2月6日(日)
(3)本選会（非公開審査）2月11日(金)振袖姿を審査

■申込み・問合せ
十日町雪まつり実行委員会事務局
(クロス10 4階) ☎ 57-3100



問い合わせ
健康福祉課健康増進係
TEL 57-3111(内線143)

日本一の健康都市をめざして

- 歩けあるけ運動
utdoor(アウトドア)
- 検診率一〇〇%運動
earth(ヘルスチェック)
- 隣近所の声かけ運動
community(コミュニティ)
- 乳幼児期から、正しい食事をとる運動
at(イート)

身近な病気 「脳卒中」

「脳卒中」とは脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の総称で、「がん」「心臓病」について日本人の死亡原因の第3位です。脳卒中は、命が助かっても体に麻痺を生じたり言葉がうまく話せなくなったりするなどの後遺症が残ることがあり、日常生活などに支障をきたすことがあります。

十日町市の状況

15年度に脳卒中を発症した78人のうち、61人に訪問調査を行った結果は次のとおりです。

- ①性別
約6割が男性。
- ②年代別発症率
70歳以上の高齢者が6割と高いが、40〜50歳代の人も約2割を占めていた。
- ③健康診断の受診状況
約半数の人が健康診断を受けていなかった。
- ④発症前の健康状況
約8割の人が高血圧や糖尿病、心疾患などほかの疾患を持っていた。
- ⑤思い当たる発作の要因
約半数の人が過労やストレスを感じていた。
- ⑥日常生活で思い当たること
約半数の人が塩分過多や運動不足、喫煙、偏食などをあげていました。

予防するには

市の状況①〜③より
市で実施している住民健診では男性の受診率が低く、特に40〜50歳代男性の受診率がほかの年代と比べて低くなっています。年に1回は健康診断を受け、自分の体の状態を知るなど、自己管理を心がけましょう。
市の状況④〜⑥より
脳卒中になった人の約半数は日常生活などで発症の要因に思い当たることがありました。日常生活を振り返り、「食事・運動・休養」を心がけるなど、できるところから改善していきましよう。



おかだ ちさとちゃん 平成15年11月21日生まれ 中条島

最近ちょっとだけ歩けるようになったちいちゃんは、翔太お兄ちゃんの後にくっついて行くのが大好き。ケータイ電話のおもちゃなどなんでもお口に入れちゃいます。歌に合わせてリズムをとるのもとってもじょうずです。

岡田 千里 ちゃん

うちの
SMILING FACE

めぐちゃん 33

青

春

リ

レ

ー

①① 前月の蕪木良太さんからバトンタッチ

すべて手作り、味に自信あり

高校卒業後、父が始めたピザ屋を手伝って9年になります。当初はチェーン店でしたが、4年前に一家で独立して今のお店になりました。

受付から生地、トッピング、宅配までできるようにしました。ピザに携わってからもっとピザに興味をわき、いろいろな宅配ピザを食べたり研究したりしました。今は粉の配合からソースまですべて手作りにこだわっています。味には自信があるので、一人でも多くの人に食べてほしいですね。

ピザを買ってもらい、はしゃぎながら帰る子どもを見ると、家で喜ぶ姿を想像してしまいます。家族でも仲間でも、何人か集まったら気軽に宅配を頼んでほしいですね。

雪の季節の宅配は大変です。夜など道路に雪があり家の前まで行けないときは歩いて配達します。でも、お客様が「この前食べたのおいしかったよ」と言ってくれ、もう一度来てくれたり注文してくれたりすると苦労が報われたようでうれしいですね。年中無休ですが、年に一度の家族旅行が楽しみです。ここ数年は国内なので、ぜひ海外に行ってみたいですね。



相馬亜耶さん
1976年生まれ
ピザ・パパ勤務



半世紀の市報から

あの日
あのとき



素晴らしい！スクールバス購入

この市営スクールバスは、新市建設計画で川治中学から6キロも離れた同校八箇分校が本校舎の増築が完成して明春統合される予定で、分校生徒52人を毎日運ぶ計画のものです。

昭和32年10月15日市報第13号より

車体の色はグリーンとクリームの2色、とにかくハイカラが目立っていましたね。乗り心地はわりとよかったですよ。私の記憶では、たしか県内初のスクールバスで、中学校までの通学の様子は映画で記録されました。当時はそれほど注目されていたんです。市の職員が運転し、ドアの開け閉めの乗務員がいましたね。桧木から笹之沢までの生徒が乗車しました。朝は7時半ころ長里橋近くのバス停を出発し、最後に笹之沢の生徒



雲野 精一さん
(孕石・57歳)

が乗ると補助席が全部埋まりました。私が3年生のときは、70人くらいの乗車したので、完全に定員オーバーでした。山本から中学校までの道が狭くバスが入れなかったんでしょう、終点は現在の山本の信号機のあたりです。そこから15分くらい歩き、8時15分ころ川治中学校に着きました。帰りは午後4時ころの出発だったため、クラブ活動ができなくて残念でした。学校帰りに煮干しや身欠きニシンなど頼まれた家の買い物をよくしていましたよ。

冬になると、国道とはいえ除雪もしなかったの、バスが通れず寄宿舎生活です。土曜日の午後には、各集落の人たちが道付けた雪道を、1時間半歩いて孕石の自宅まで帰りました。今のような防寒着も無い時代ですが、それほど苦労と思わなかったですね。

GUIDE

お知らせ・ガイド

市役所 TEL 57-3111

GUIDE 災害情報

家屋の取り壊しや異動(相続・売買など)は手続きを

●対象①家屋の全部または一部を取り壊した人②未登記家屋(法務局に登録していない建物)で、売買・贈与・相続などで異動があった場合など ●問合せ 税務課資産税係(内線112)

アスベスト(石綿)の飛散防止にご協力を

アスベストは、昭和55年ころまでに建築された鉄骨構造などの耐火構造建築物や準耐火構造建築物に使用されている可能性が高い発ガン性物質です。アスベストを使用している建物の解体や補修工事を行う場合、次の点に注意してください。①地震

で被害を受けた建物は、解体専門業者に相談し、一時的にシートで覆うなど飛散防止に努めてください②一定規模以上の建築物の解体・補修には、事前に届出書の提出が必要です ●問合せ 六日町保健所環境センター(☎025-772-8154)

被災者のための弁護士による無料法律相談

●日時 1月16日(日)・23日(日)・30日(日)午後1時～4時(受付3時30分まで) ●会場 市役所 ●問合せ 市民生活課市民係(内線153)

中越大震災復興キャンペーンスローガン

県では「元氣だしていこー!新潟」を新潟県中越大震災復興スローガンとして使用しています。「元氣だしていこー!中越」など言葉を修正して使用することも可能です。 ●問合せ 県庁総合政策部企画課(☎025-280-5085)

地震関連紛争の示談斡旋手数料は無料です

県弁護士会では、示談斡旋制度を設けて話し合いによる円満な紛争解決を図っています。次

2004女・男セミナー
アート(石彫)の町で
アートを考える

●日時 1月30日(日)午後1時30分～4時 ●会場 公民館本館 ※保育ルームあり ●内容 講演「アート(石彫)の町でアートを考える」公共彫刻を共同参画の視点で探る」講師・東京国際大学教授・西山千恵子氏 ●申込み・問合せ 1月25日(火)までに、企画人事課広報広聴係(内線214)

十日町地域就職面接会

事前申込み不要、各企業との自由面談方式です。 ●日時 1月19日(水)午後1時30分～4時 ●会場 クロス10 ●参加費 無料 ●対象 3月学校卒業生・一般求職者 ●問合せ ハローワーク十日町(☎57-2407)

THANK YOU
寄付ありがとう

12月25日届出分まで(敬称略)

- 十日町市へ＝本町クリニック(キーボード1台)
- 情報館へ＝熊鷹敏和(廿日城) 西野源治郎(住吉町) 岩田保(明石町) 根津新一(稲荷町4) 上村捨二郎(土市5) 大久保忠夫(新座4-2)
- 博物館へ＝村竹正三(高田町1) 蕪木清蔵(昭和町1) 中林昌子(宮下町西) 福原健一(新座3) 波形卯二(魚ノ田川) 堀行(旭ヶ丘) 山田欽治(四日町4) 林正(小泉1) 高木清一(高田町2) 蕪木元昭(鎌倉市) 田村サガ子(横浜市)
- 社会福祉事業へ＝野田スミイ(春日町2・30,000円)

GUIDE 募集

17年度市奨学生募集

●応募資格 平成17年度に高等学校、高等専門学校、専修学校短期大学、大学に進学予定か在学习中で、次のすべてに該当する人①保護者が十日町市民となつてから3年以上経過している人②学業成績が優秀と認められる人③経済的な理由で学資の支払いが困難な人④心身ともに健全な人 ●奨学金月額 高等学校・10,000円 高等専門学校・20,000円 専修学校・30,000円 短期大学・大学・35,000円 ●貸与期間 17年4月から在学する学校の最短期間(17年度) ●提出書類 ①奨学金等貸与願書

GUIDE し座 催講

節季市の会場を昭和町通りに変更します

地震の影響などにより、例年諏訪町で開催していた節季市の会場を、今年は昭和町に変更します。 ●日時 1月10日(成人の日)・15日(土)・20日(木)・25日(火)午前9時～午後4時30分 ●会場 昭和町通り(3丁目、智泉寺前) ●交通規制 区間 高田町交差点～駅通り交差点間の昭和町通り ●交通規制日時 節季市開催日の午前8時30分～午後5時 ●問合せ 観光交流課 光係(☎57-3100)



(市ホームページから入手可) ②在学(卒業) 学校長の推薦書 ③成績証明書 ④戸籍謄本と住民票謄本 ⑤医師の健康診断書 ⑥16年度市県民税所得課税証明書(世帯全員が載っているもの) ●その他 1修学一時金希望者も若干名募集します(高校20万円～大学50万円、願書は奨学生と兼用) ●申込み・問合せ 2月28日(月)までに、教育委員会庶務管理課(内線322) ※3月下旬に奨学生を内定し、月末までに応募者に通知します

文化活動支援助成金

県文化振興財団では、自主的な文化活動の展開と創造を支援するため、文化事業に対する助成を行っています。17年度上期(4月～9月)実施分を募集します。 ●対象者 非営利団体など ●対象事業 音楽、美術、演劇、舞踊、文学、映画、生活文化に関する文化活動 ●事業区分と助成限度額 ①成果発表事業 ②海外・県外公演事業 ③自主企画公演・展示事業 ④地域文化創造事業 ⑤芸術文化普及事業 ⑥30万円 ●申込み・問合せ 2月15日(火)までに、(財)県文化振興財団(☎025-228-3577)

妻有の女性史講座 女性たちが綴った妻有の歴史

近世以降、織物産業を根底で支えた妻有の女性たち。機仕事を通して人生の糸をどう紡いだのでしょうか。当時の労働や生活文化・風習などの日常世界を史料から学び、女性の生き方や社会のあり方を考えます。

- 時間 午後1時30分～3時30分
- 会場 公民館本館
- 受講料 無料
- 申込み・問合せ 1月19日(水)までに、公民館本館(☎57-5011)

期 日	講 師	テ ー マ	内 容
1月22日(土)	元十日町市史編纂副委員長 佐野良吉先生	越後縮から絹織物へ—織物産地を支えた女性たちの情熱と悲哀	近世から近代にかけて織物産業を根底で支えた女性たちの労働と織物に対する思いについて学びます。
1月29日(土)	新潟県民俗学会会長 駒形 彪先生	妻有の女性たちが受け継いだ生活文化や風習	近代における女性の衣食住を中心とした暮らしぶりや育児などについて学びます。
2月5日(土)	郷土史家 住吉順二先生	家族の稼ぎ手としての女工に出た娘たち	昭和30年代、紡織工場などに働きに出た娘たちの苦労や生活について、「検証 析窪越え」(住吉順二著)をテキストにして学びます。
2月26日(土)	国学院大学名誉教授 堀 恒一郎先生	高度経済成長期、豪雪と過疎の中に生きた妻有の女性たち	生活記録「豪雪と過疎と」を全国的な視野から検証し、その時代を生き抜いた女性たちの体験談を聞きます。

中越大震災復興祈念
チェン・ミン

二胡 LIVE in 十日町

テレビなどでもおなじみ、二胡奏者チェン・ミンのコンサートです。豊かな感受性にプラスされた確かなテクニック、指先からこぼれる二胡の音色。気品溢れる演奏に聴衆は魅了されます。



- 日時 1月16日(日)午後2時～(1時30分開場)
- 会場 市民会館
- 入場料 無料(入場には整理券が必要、入場は小学生以上)
- ※当日整理券は正午から公民館本館で100枚発行します(1人1枚限り)
- 問合せ 公民館本館(☎57-5011)

GUIDE その他

鳥インフルエンザ
発生防止にご協力を

鳥を飼育している人は感染に十分注意してください。①野鳥を鶏舎などに入れない②野鳥が住む湖沼から鶏舎などに水を引き込まない ●問合せ 農林課農業振興係(内線331)

十日町地域の
市外・市内局番が変わります

2月22日(火)から、十日町地域の固定電話すべての市外・市内局番が3けたになります。

(例) 現在 0257-57-3111
市役所 変更後 025-757-3111

市内から 現在 57-3111
かけるとき 変更後 757-3111

まちの文化財

妻有の宝物^③

市指定文化財／無形民俗文化財
新水のドウラクジンとハネッケーション



ドウラクジンと
ハネッケーション

賽の神^{さいかみ}は、集落の安寧^{あんねい}や家庭の無病息災を祈る小正月の神事として広く行われています。新水集落のドウラクジン(道楽神)とハネッケーション(羽根返し)

は古くからの伝統を守り、格別な趣をもつものとして平成7年に市文化財に指定されています。
午前8時、その年の役員が中心となって鎮守様の境内中央にドウラクジンの像が作られます。杉の丸太を芯にして、各戸から集めた松飾り、しめなわ、お札のほか豆木、杉の葉や皮などをつめ込み、わらや縄を用いて高さ約5m、径約3mの堂々たる姿に仕上げます。午後2時、火入れを合図に神事が始まります。厄年の男性は木の道楽神を、女性はノンピロと呼ばれる色紙で作った御幣^{ごひ}を竹竿^{さお}の先につけて火にかざし、厄除けの祈願をするのが習わしになっています。
一連の火祭りが終了すると、いよいよハネッケーションの始まりです。踏み固めた雪原に大きな円陣を作り、老いも若きも手にコスキをたずさえて行う勇壮なハネッケーションは、この集落にとって冬の風物詩です。各地で小正月行事が消えつつある中、地域ぐるみの保存活動に支えられて今日に至っています。(文化財課)

編集後記

●この地域の人は文化に対する意識が高いと思いますね。震災で被災した古文書の緊急避難事業を行っている情報館へ調査に訪れた県立文書館職員の話です。他の地域と比べ、市民の意識が高いからこそ多くの貴重な古文書が残されているということです。情報館には、廃棄されたかもしれない古文書が山のように積まれています。十日町市史が多くの市民の参加や協力で編さんされ、その後も古文書の保存と活用に努めてきたことが今回の成果につながったのではないかと思います。本年も市報をよろしく願います。(巻)
●一つ前の西年の春、大学生になり、大切な仲間たちに出会いました。地震のときには、下越や佐渡からラジオで声を聞いたからと仕事を休んでボランティアに駆け付けてくれたり、何も食べていないだろうからとおにぎりを届けてくれたりした生涯の友です。来れなくても年賀状には皆、励ましの言葉が添えられていました。12年前はそんなヤツらと出会った年でした。再びめぐってきた西年、今年もさまざまな人に出会い、表紙のように大空に羽ばたくような年になれると思います。今年もよろしく願います。(五)

十日町市民の願い
雪の国のきものの町で
今日よりすばらしい
明日を夢みて
今日に限りない
感謝をささげ
今日を人々のために
働けることを
念じてやまない